

令和元年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告

（令和 2 年 3 月）

報告者氏名・所属	玉井康之（へき地・小規模校教育研究センター長）
研究プロジェクトの名称	少人数・遠隔教育の高度化を支援するへき地・小規模校教育プロジェクト
プロジェクト担当者 （氏名・所属・職） ※代表者に●を付すこと	へき地・小規模校教育研究センター員 全員 ●玉井康之（へき地・小規模校教育研究センターセンター長） 川前あゆみ（へき地・小規模校教育研究センター副センター長） 札幌校センター員 旭川校センター員 釧路校センター員 函館校センター員 岩見沢校センター員
研究プロジェクトの概要等（期間全体）	
<p>本研究プロジェクトは、へき地・小規模校教育研究センターのセンター員等が組織全体として取り組むプロジェクト（研究代表者：センター長 研究分担者：センター員、へき地教育アドバイザー等）で、少人数・遠隔教育の高度化を支援することを目的とするものである。とりわけ本年度からは、全国教育共同利用センター化を目指し、これまでの研究・教育の蓄積を踏まえて、全国の FD 活動に資する取り組みを重視している。また北海道立教育研究所と連携した取り組みを進め、学校現場・教育委員会と連携して小・中学校に影響を与える役割を一層高めることを目指した。</p> <p>さらに、へき地教育が開発途上国からも高い評価を受けており、国際社会におけるへき地教育の記述伝播の取り組みなども重視している。これらを通じて、全国・世界への社会貢献・国際貢献力を高めることを目指している。</p> <p>取り組みの柱は以下の通りで、これらが全国的にも FD として求められている。</p> <p>第 1 に、へき地・小規模校に関する都道府県教育委員会等への出前講義である。</p> <p>第 2 に、ICT を活用した授業や学習活動である。</p> <p>第 3 に、遠隔双方向システムを活用した双方向授業である。</p> <p>第 4 に、へき地校体験実習等の受け入れ校の拡大及び大学運営手法の開発とプログラム化である。</p> <p>第 5 に、全国フォーラムの年複数開催による研究・教育の公開と普及である。</p> <p>第 6 に、これらを含めた FD 活動の全国的な推進である。そのために、フォーラム等での研究交流を強化すると共に、日本教育大学協会でのへき地・小規模校部門での研究交流を強化することにした。</p> <p>第 7 に、JICA・ラオス・中国等の海外へき地教育研修団を受け入れ、国際的なへき地社会貢献を進めることである。</p> <p>第 8 に、北海道教育大学のへき地教育研究会発の成果を国際的に普及するために、複式授業の手引き・へき研 HP の英語版作成へ着手し、海外からの問い合わせや研究視察の受け入れを拡大していくことである。</p> <p>第 9 に、北海道立教育研究所の「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」のプロジェクトを北海道教育大学・北海道教育委員会共同で進め、人口減少社会に対応した学校教育のあり方を研究開発することである。またこの報告書を作成して、文科省や全国教育研究センター等に普及していくことである。</p> <p>第 10 に、年間を通して、複数回のニュースを発行し、広く日本教育大学協会や多くの教育関係者にも活動成果を普及することである。</p>	

第 11 に、へき研センター紀要『へき地教育研究』は毎号発行しており、この専門的な紀要を継続的に発行すると共に、日本教育大学協会へき地・小規模校教育部門会員にも門戸を開放して、広く専門家の投稿を拡大していくことである。

進捗度	1	← 番号を記入 1. 順調に進んでいる 2. ほぼ順調に進んでいる 3. やや遅れ気味 4. 遅れ気味
-----	---	--

研究実績の概要（当該年度）

1. 北海道立教育研究所が主催する現職教員向けの研修「令和元年度これからのへき地・小規模校教育充実研修」を、今年度から本学との共催により、企画から運営にいたるまで連携・共同して実施した。【基礎編】及び【発展編】ともに、双方向遠隔授業システムにより4キャンパス会場へ配信して開催した。
2. 秋田県・岩手県・福島県・岐阜県・高知県および北海道の教育委員会が主催する現職教員研修での出前講義を行った。
3. ICTや双方向遠隔システムを活用した授業の開発のために、北海道教育委員会を中心とした遠隔双方向プロジェクトを組み、幌延町の小学校・中学校と結んだ遠隔授業を実験的に開始した。
4. へき地校体験実習を拡大する方向で、旭川校等へ具体的な支援と対策を進めるため、旭川キャンパスと北海道教育大学と北海道教育委員会との連携協議を行った。また北海道教育委員会からは全面的なへき地校体験実習の拡大への支援と協力を約束して頂き、実際にその支援のために市町村教育委員会への指示を出して頂いた。
5. 令和元年度第1回へき地・小規模校教育推進フォーラム「へき地・小規模校の教師教育と大学・教育委員会の役割－離島型・内陸型へき地の特徴から人材育成のあり方を考える－」を実施して、全国の大学等から77名の参加があり、各機関における取り組み、各種制度及び実態等について説明及び意見交換等が行われた。
また全国フォーラムを札幌校本部や釧路校だけでなく、旭川校でも2回目を開催することにした。ただし3月のフォーラムは新型コロナウイルス感染症の関係で延期することになった。
6. 2019年8月に開催したフォーラムでは、全国の大学に呼びかけ、4国立大学からも参加があり、これらの大学と情報交換を行うと共に、北海道教育大学で進めているプロジェクト研究を紹介した。これらの交流はFD研修となっている。
7. 平成30年度に本学が事務局となり発足した「日本教育大学協会 全国へき地・小規模校教育部門」では、今年度の同協会研究集会で分科会を初めて開催し、全国の大学等から15件の研究発表が行われた。
8. JICA 中南米国の各国のへき地教育研修団を受け入れた。各国の参加者はかなり満足度が高かった。またラオスのシャンティボランティア会のへき地教育研修団を受け入れると共に、北海道教育大学の訪問団による現地指導を行い、国際社会貢献に果たすへき研センターの役割を大きくした。さらに中国の21世紀国家教育院からの研究者視察も受け入れ、各国のへき研センター視察を広げていった。
9. 海外の影響力を高めるために、「へき地・複式学級における学習指導の手引き」の英語版の作成に着手し、今後の海外からのオファーに備えられるように進めている。
10. 北海道立教育研究所と連携して、人口減少社会に対応したプロジェクトに協同参加し、その報告書をまとめて文科省に提出した。その成果内容は、都府県各教育研究センターからも高い評価を得ている。
11. へき研センターニュース「へきけんニュース」は、2週間に一度ぐらいのペースで発行し、活動内容が日常的に大学関係者や日本教育大学協会関係者にも分かるようにした。

12. へき研センター紀要『へき地教育研究』は、73号を発行した。これは毎年確実に欠番なく、発行しており、戦後以来の研究成果の蓄積を継続している。さらに日本教育大学協会へき地・小規模校部門への投稿門戸を開き、全国的な紀要に発展させるようにした。

今後の研究プロジェクトの推進計画

1. 全国教育共同利用施設への申請は、引き続き行う。
2. 日本教育大学協会へき地・小規模校教育部門に加えて、私立大学・公立大学を含めた「全国大学へき地・小規模校教育研究会」（仮称）を組織する。
3. JICA中南米・JICA英語圏・ラオス等の海外展開を拡大し、へき地教育国際展開7カ年計画を推進する。
4. 道立教育研究所と連携した「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」を引き続き推進する。
5. ICT・双方向遠隔システムを活用した双方向遠隔事業を推進する。そのための双方向遠隔システム機器を導入し、具体的にへき地校と連携して試行する。
6. 道立教育研究所と連携したへき地教育講座を拡大推進する。
7. 全国経教育研究連盟と情報互換を推進する。
8. へき地校体験実習を拡大するために、道教委と調整する。

教育現場や地域で活用可能な成果等

1. 日本教育大学協会では情報交換・FDが拡張された。
2. JICA・ラオス研修団で開発途上国のへき地教育研修が拡大され、日本の教育活動にも生かすことができた。
3. 幌延町などの遠隔双方向事業を実施し、へき地教育の研修事業がより効果的効率的に展開した。
4. 北海道立教育研修所と連携したへき地教育講座を3キャンパスを結んで実施することにより、全道各地の教員が研修事業に参加することができた。
5. 全国へき地教育研究連盟・北海道へき地教育研究連盟と情報交流を推進することになり、全国のへき地教育関係者にいっそう大きな影響を与えることになった。

研究成果の公表実績（当該年度）

【著書】

川前あゆみ・玉井康之・二宮信一編著『豊かな心を育むへき地・小規模校教育』学事出版社、2019年

その他

【学会発表】

- ・令和元年度日本教育大学協会研究集会 第4分科会「へき地・小規模校教育」
開催日：令和元年10月5日（土）
場所：岡山大学教育学部
発表者・発表タイトル：別添参照
参加者数：約70名（分科会のみ）

<p>【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度第1回へき地・小規模校教育推進フォーラム 開催日：令和元年8月28日（水） 場所：事務局第1会議室 参加人数：77名（本学教員・他大学教員・教育機関関係者・学生等） ・令和元年度これからのへき地・小規模校教育充実研修【基礎編】 開催日：令和元年7月9日（火） 場所：札幌駅前サテライト他（双方向遠隔授業システムにより4キャンパス） 参加人数：27名（小規模校及び複式学校に勤務する初任・中堅・ベテラン段階の教諭等） ・令和元年度これからのへき地・小規模校教育充実研修【発展編】 開催日：令和元年9月3日（火） 場所：札幌駅前サテライト他（双方向遠隔授業システムにより4キャンパス） 参加人数：21名（小規模校及び複式学校に勤務する中堅段階及びミドルリーダーの教諭等） 	
<p>【テキスト、報告書、研修資料等】</p> <p>道研報告書 川前他へき地の本</p>	
添付資料	
ダウンロード可能なドキュメント	『複式指導の手引き』 『へき地・小規模校教育研究センターリーフレット』
関連URL	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度第1回へき地・小規模校教育推進フォーラム https://www.hokkyodai.ac.jp/info_topics/honbu/detail/8903.html ・令和元年度日本教育大学協会研究集会 第4分科会「へき地・小規模校教育」 https://www.hokkyodai.ac.jp/info_topics/edu_center_remoteplace/detail/9218.html ・令和元年度これからのへき地・小規模校教育充実研修【基礎編】 https://www.hokkyodai.ac.jp/info_topics/honbu/detail/8663.html ・令和元年度これからのへき地・小規模校教育充実研修【発展編】 https://www.hokkyodai.ac.jp/info_topics/honbu/detail/8953.html
問い合わせ先	<p>氏名：地域連携推進室 堀北昌宏 電話：011-778-0210 E-mail：crc@j.hokkyodai.ac.jp</p>